

目次

- 第80回国際酸素製造者協会 (IOMA) 南アフリカ・ケープタウン総会へ参加 … 1
- CGA Hydrogen Safety and Technology Seminar 2023 … 4
- 第17回MGR認定試験 … 6
- 在宅酸素火災予防キャンペーン … 7
- ウェブサイト掲載お知らせ一覧 —2023年10月15日~2023年12月15日掲載— … 8
- 新事局職員の紹介 … 9
- 気ままにコラム … 10



第80回国際酸素製造者協会 (IOMA) 南アフリカ・ケープタウン総会へ参加

2023年10月27日～29日に、第80回記念総会となる国際酸素製造者協会 (International Oxygen Manufacturers Association : IOMA) 年次総会が、南アフリカ・ケープタウンの Mount Nelson Hotel で開催されました。

世界の28か国から産業ガスビジネスに関わる会員95社が参加し、合計148名の参加がありました。JIMGA会員企業からは、4社19名が参加し、JIMGAからは、澤木専務理事、羽坂が出席しました。また、IOMA総会では、理事会メンバーとして高千穂化学工業(株)の江上社長が、2024～2026年の理事会メンバーとなることが承認されました。

80回記念総会ということもあり、ドネーションプログラムや総会終了後のサファリツアーが企画されました。ドネーションプログラムでは、高校生5名から募集した総会ロゴの製作に対する賞金の授与や、参加者に100ランド (日本円で約10,000円) のクーポンを配布し、昼食時にお土産をそのクーポンで購入することによる地域への還元等が含まれます。



南アフリカの高校生がデザインした
第80回IOMA総会のロゴ

ケープタウンには、代表的な観光地であるテーブルマウンテン (標高1086m) があり、日本でいえば、つつじやバラの咲く頃のような大変過ごしやすい気候での開催となりました。標高300mから、頂上まで支柱なしのケーブルカーが運行しており、頂上までの間に360度

回転する機能が付属しています。ただし、強風でケーブルカーが運行停止になり、テーブルマウンテンに登れなかった参加者もいました。また、反アパルトヘイト活動でノーベル平和賞を受賞し、南アフリカ大統領となったマンデラ氏が、18年間投獄されたロビンアイランドがあります。



テーブルマウンテンと360度回転するケーブルカー

国際委員会 (1日目)

10月27日午前8時より、年次総会に先立って国際委員会 (Global Committee: GC) が行われ、岩谷産業(株)堀口副社長と齋藤部長、日本酸素ホールディングスの三木常務執行役員と久和野部長、エア・ウォーター(株)大塚常務執行役員、JIMGAから澤木専務理事と羽坂が参加しました。

2024～2025年のGC議長としてMesserのJens Luehring氏が、副議長としてAir LiquideのPascal Vinet氏が就任することが承認されました。国際整合化委員会 (International Harmonization Council : IHC) の基準作成プロジェクトは、新規プロジェクト1件、改訂プロジェクト4件の

活動開始が承認されました。医療用酸素に関しては、PSAで発生する93%酸素が医療ガスとして、各国（日本を除く）で標準化されていることが確認されました。PFAS（Per- and polyfluoroalkyl substances：ガス業界で一般的に使用されているテフロンや、PTFE等を含む材料の総称）の使用がヨーロッパで規制の対象となることに対して、IHC内にタスクフォースチームを結成し、パブコメ等の対応を行っていくことが決定されました。

持続可能性指標に関しては、前回会議のGHGプロトコルのScope1および2のみで基準を作成する方針を、Scope3を含む基準にするよう変更し、完成まで6か月延期することを容認することが確認されました。水素活動に関しては、IHC基準の作成を加速し、IHCとしてISOや外部水素関連協会活動へ積極的に参加するよう奨励があり、さらに水電解製造も一般的になってきていることもあり、IHC内の「HyCO委員会」の名称を、「水素製造委員会」に変更することが承認されました。

総会1日目とプレジデントバンケット(2日目)

8時半から、総会1日目がスタートしました。理事会メンバー紹介の後、IHCメンバーが、IOMAプレジデントであるMarco Annoni氏（SOL S.p.A.）より紹介されました。恒例の全員の自己紹介が40分ほど行われ、講演へと進みました。

南アフリカのボランティア協会（Uthando）のJames Fernie代表から、南アフリカにおけるボランティア活動の現状についてプレゼンテーションがあり、最後に寄付の要請がありました。続いて、事業継承について、2世、3世経営者5名よりショートプレゼンがあり、続くパネルディスカッションで会社の存続に関する議論が行われました。

夕方の18時半からのカクテルディナーに続いて、プレジデントバンケット（ドレスコード：フォーマル）が行われました。

ここでは、2023年度国際統合化功労賞として、AIGAよりノミネートされたJianming Lu氏（Air Products and Chemicals、シンガポールガス協会）が、受賞しました。AIGAからの受賞は、初受賞となります。



2023年度国際統合化功労賞スピーチ
（AIGA シンガポールガス協会Jianming Lu氏）

受賞スピーチは、南アフリ

カから渡航ビザが下りなかったため、ビデオでのスピーチとなりました。

この日は、ラグビーワールドカップの決勝（南アフリカvsニュージーランド）が行われたため、食事後ダンスする参加者とラグビーワールドカップを観戦する参加者とに分かれました。南アフリカが12対11で勝ち、大変な騒ぎとなりました。



プレジデントバンケット中にラグビーワールドカップ決勝（南アフリカvsニュージーランド戦）を観戦する参加者

総会2日目(3日目)

総会2日目は、GCのIvo Bols議長から、安全、持続可能性、水素に関するIHC活動は、IOMAメンバーのニーズに対応した活動となっており、IOMAメンバーへの価値を提供しているとのプレゼンテーションがありました。また、南アフリカの産業ガスマーケットに関する講演があり、Robert Richardson氏（Air Products South Africa）から、アフリカでの鉱工業とそのガス応用についての話があり、アフリカでのガスビジネスの潜在力の大きさについて示唆したものでした。



IHC活動を説明するIvo Bols氏（GC議長）



歴代のIOMAプレジデントメンバーによる討論

続いて、歴代のIOMAプレジデント5名が登壇し、IOMAの歴史や今後の対応に関するパネルディスカッションが行われました。30年程前は、ゴルフをしたり、食事をしたり社交の場であったが、20数年前より、国際統合化活動が始まり、安全維持や業務の効率化に寄与してきたことが確認されました。引き続き、メンバーのニーズに合った統合化活動の推進をするよう奨励がありました。

来年の第81回IOMA年次総会は、2023年11月3日～5日にアルゼンチンのブエノスアイレスで開催される予定です。会場ではサッカー選手メッシ氏のウェルカムスピーチが流されました。

(国際部会 事務局 羽坂 智)



CGA Hydrogen Safety and Technology Seminar 2023

CGA (Compressed Gas Association) 主催による、Hydrogen Safety and Technology Seminar 2023 (水素安全／技術セミナー) がアメリカ、ワシントンD.C.郊外のマクリーン市のホテル、Archer Hotel Tysons (アーチャー ホテル タイソンス) にて10月17日～18日の2日間にわたり開催され、JIMGAとして参加しました。

参加者は、アメリカを中心にヨーロッパ各国から、また、ガスメーカーだけでなく、容器メーカー、建設業者、機器関連メーカー、大学など多岐にわたる約100名が参加し各国、各関係者の関心の高さを実感しました。



テーマは、「水素に関する安全」です。セミナーは、まずRich Gottwald氏 (CGA CEO) の挨拶から始まり、Pablo Guzman氏 (タスクフォース委員長／Air Liquide) による今回のプログラムの紹介へと進みました。

セッションごとのテーマについて、ガスメジャー (Air Liquide、Air Products) を中心に、ガス関連機器会社 (Chart、Luxfer、FIBA等) また、設備、配送、建屋に関する会社や大学の研究関係者など様々な視点からの水素の安全対策等に関するプレゼンテーションが2日間にわたり行われました。

セミナーの締めくくりとして、Richard Craig氏 (CGA Vice President) とJan Strybol氏 (EIGA (European Industrial Gases Association) General Secretary) の進行による「水素規制と我々の未来への提言」というテーマでパネルディスカッションが行われ、盛況のもと、閉幕しました。



一日目の夜のレセプション

水素における問題点やそこに潜む危険は世界共通です。プレゼンテーションではインパクトのある火災事故の動画が紹介され、また様々な視点から、水素の危険性を分析し、事故予防対策や、水素についての安全システムやメンテナンス、建屋建設の注意点の様々な要素や設備、技術についてソフト面、ハード面と多岐にわたりました。

水素社会実現に向けて、“コスト削減”、“効率化”、“節約”は、積極的に各社が検討され重要課題ではあるが、安全を疎かにして、万が一、大事故が起こってしまったら水素社会実現にブレーキがかかってしまいます。「安全は、最優先課題として位置付けなければいけない。今後、EIGA、CGA、JIMGAと協力して安全に関する指針を策定していく必要がある」という関係者の言葉が印象的でした。

なお、セミナー資料は、水素技術ワーキンググループ委員に共有しています。

JIMGA会員の方で、資料の入手希望がありましたら、JIMGA事務局（TEL：03-5425-2421 e-mail：ktanaka@jimga.or.jp）までご連絡ください。

（水素技術WG 事務局 田中 克幸）

帰国時、空港に向かう地下鉄を途中下車して、立ち寄りました。



ワシントン記念塔



ワシントン記念塔展望室
から見た国会議事堂



ホワイトハウス

第17回MGR認定試験

第17回MGR認定試験を去る2023年12月3日（日）に全国5会場（札幌・仙台・東京・大阪・福岡）で実施しました。受験者数は以下のとおりで、昨年の140名から16名増加しました。3科目すべてに合格した方（科目免除と過去の科目合格を含む）をMGRに認定いたします。認定証はMGR管理者様宛に2024年3月から発送を開始する予定です。

試験の実施状況

※（再 ）は全受験者数のうち再受験者数

| 試験科目 | 試験時間 | 受験者数 | 欠席者数 |
|-------|-------------|------------|------|
| 医療ガス | 11：00～12：00 | 135名（再 26） | 4名 |
| 制度・法令 | 13：00～14：00 | 138名（再 32） | 4名 |
| 疾病と治療 | 14：20～15：20 | 133名（再 26） | 4名 |
| 合 計 | | 156名（再 46） | 4名 |

過去の試験合格者数（2007年度～2022年度）

| 回数・年度 | 合格者数※ | 合格率 |
|--------------|-------|-------|
| 第16回（2022年度） | 83名 | 59.3% |
| 第15回（2021年度） | 120名 | 67.4% |
| 第14回（2020年度） | 83名 | 60.6% |
| 第13回（2019年度） | 82名 | 53.6% |
| 第12回（2018年度） | 92名 | 58.2% |
| 第11回（2017年度） | 184名 | 82.9% |
| 第10回（2016年度） | 134名 | 57.5% |
| 第9回（2015年度） | 130名 | 62.8% |
| 第8回（2014年度） | 150名 | 62.2% |
| 第7回（2013年度） | 121名 | 55.0% |
| 第6回（2012年度） | 174名 | 74.4% |
| 第5回（2011年度） | 214名 | 92.6% |
| 第4回（2010年度） | 317名 | 89.2% |
| 第3回（2009年度） | 605名 | 89.9% |
| 第2回（2008年度） | 997名 | 89.0% |
| 第1回（2007年度） | 785名 | 86.0% |

試験結果の通知

試験合格者の受験番号（下5桁）一覧は下記URLよりご覧ください。（JIMGAウェブサイトMGRのページにも掲載しています）

第17回MGR認定試験合格者一覧

https://www.jimga.or.jp/files/page/mgr/MGR_2023ninteishiken_kekka1227.pdf

（教育事業委員会 MGR部会 事務局）



（東京会場）

在宅酸素火災予防キャンペーン

在宅酸素療法では酸素濃縮装置、液化酸素および酸素ポンベを使用し、酸素ガスを吸入するため、取扱説明書や添付文書において支燃性ガスである酸素ガスと火気を近づけてはならない旨が記載されています。

しかし、火災事故により被害に遭われる患者様が毎年おられ、2003年度から2023年度上半期まで一般社団法人日本産業・医療ガス協会（JIMGA）が確認している火災事故データでは、94件の死亡、8件の重傷となっています。火災原因の37%が喫煙、16%が台所等での火気使用、線香、仏壇でのろうそく他、8%が漏電、不明が40%となっています。

JIMGA在宅酸素部会ではこのような火災事故をなんとかして撲滅するためのキャンペーンとして「在宅酸素火災予防キャンペーン」を5年前から展開しています。

標語最優秀応募作品・会社決定

今年は、厚生労働省、総務省消防庁、日本医療ガス学会、日本呼吸器財団のご後援を得てキャンペーンを行っており、活動の一環として火災予防をテーマとした標語を在宅酸素部会委員から募集したところ多数のご応募をいただきました。

先般、第三者による選考委員会において厳正な選考を行い、最優秀応募作品・会社が決定しました。

2023年度選出標語

「NOタバコ リスクをなくして NO火災」
大陽日酸株式会社

最優秀応募作品は、キャンペーン期間中に患者様や医療機関に配布するポスターに掲載しています。

酸素濃縮装置等を使用中の患者様が、喫煙等が原因と考えられる火災により死亡するなどの事故を撲滅するため、改めて注意喚起をお願いいたします。

ポスター（PDF）は以下URLよりダウンロードが可能です。ぜひご活用ください。

https://www.jimga.or.jp/files/news/jimga/231102_kasaiyobo_poster.pdf

（在宅酸素部会 事務局）

在宅酸素 火災予防 キャンペーン!!

大切な約束
酸素吸入中は火気厳禁!

NOタバコ
リスクを
なくして
NO火災

本年度最優秀応募作品
大陽日酸株式会社

消防 全国消防イメージキャラクター

在宅酸素療法火災予防啓発ビデオ

- 携帯用酸素ポンベの取扱いの注意
- 在宅酸素療法における火気取扱いの注意

火災による事故原因
※死亡94件、重傷8件

| | |
|-----------|-----------|
| 不明 | 喫煙 |
| 40% (41件) | 37% (38件) |
| 台所 | 線香 |
| 7.7% (7件) | 16% (16件) |

QRコードから動画を確認できます。

QRコードから動画を閲覧できます。

後援：厚生労働省 総務省消防庁 日本医療ガス学会 公益財団法人日本呼吸器財団

2023年度ポスター

ウェブサイト掲載お知らせ一覧 —2023年10月15日~2023年12月15日掲載—

JIMGAウェブサイトでは、会員の皆様に向けた最新の情報をお知らせページにて掲載しています。2023年10月15日~12月15日までに掲載したお知らせをまとめましたので、URLよりご覧ください。最新のお知らせはこちら→<https://www.jimga.or.jp/news/>



- 2023.12.14 「超低温貯槽の過圧充填の防止」発行のご案内
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1397>
- 2023.12.14 「水素PSAの機械保全要件」発行のご案内
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1396>
- 2023.12.13 (周知依頼) マイナポータル連携等を活用した確定申告・年末調整の推進について
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1395>
- 2023.11.27 「水素及び天然ガス用往復動式低温ポンプと設置」発行のご案内
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1393>
- 2023.11.27 「小規模水素製造指針」発行のご案内
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1392>
- 2023.11.27 「在宅酸素火災予防キャンペーン」2023年度火災予防標語決定
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1391>
- 2023.11.17 「JIMGA 高圧ガスのうた」3曲の動画がダウンロード可能となりました。
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1390>
- 2023.11.10 「シラン及びその混合ガスの貯蔵と取扱い」発行のご案内
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1389>
- 2023.11.10 2024年賀詞交歓会開催のお知らせ
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1388>
- 2023.10.31 JIMGA『高圧ガス容器配送用テールゲートリフター付き車両に関する特別教育』の12月実施分の申込締切(11/10)
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1387>
- 2023.10.31 JIMGAnews 第78号発行のご案内
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1387>
- 2023.10.31 JIMGA『高圧ガス容器配送用テールゲートリフター付き車両に関する特別教育』の12月実施分の申込について
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1385>
- 2023.10.20 危険物運搬車両に対する指導取締りの実施について
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1384>
- 2023.10.18 「医療ガス・供給機器の取扱いについて」改訂のお知らせ
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1383>

新事務局員の紹介



名 前：柴田 巖（しばたいわお）

現住所：広島県広島市

出身地：東京都

略 歴：1985年 4月 日本酸素(株) 入社

電子機材事業関連業務で本社、仙台事業所に在籍

2003年 4月 プラント事業関連業務で本社、川崎事業所に在籍

2016年 7月 広島日酸(株) 取締役工場長

2023年12月 JIMGA中国地域本部 事務局長

趣 味：小学生から野球、サッカーを、社会人になってゴルフを嗜み、最近はスポーツ応援観戦を楽しんでおります。また、意外にも美術館に足繫く通っており、在籍中に広島県の全美術館制覇を密かに目論んでおります。

抱 負：工業ガスビジネスとしてはパイピング、バルク、パッケージ（シリンダー）と一通り経験しました。この経験を生かして地域および業界の安心、安全、安定ならびに更なる発展のために尽力してまいりますので宜しくお願いいたします。



気ままに コラム

<東京23区内に城跡はなんと100以上?>

皆さんは「お城」というと立派な石垣に天守閣がそびえるイメージをお持ちだと思います。

しかし、「城」という漢字は「土で成る」で成り立っており、外敵の攻撃を防ぐべく、土を掘って、堀を作り、掘った土で土塁を築いた、戦うための防御施設が城なのです。このような城が中世（鎌倉時代～江戸時代）に全国で築かれ、全体で25000～30000くらい存在したそうです。東京都だけで約200、23区内で約100存在したと言われていています。その中で究極の姿が皆さんご存じの江戸城（皇居）なのです。

23区内にある中世の城跡で遺構が残っている場所がいくつかあります。それぞれの特徴だけではなく、その城にどんな背景があったかなどを調べながら、訪問すると意外なドラマがあったことが分かります。手軽に訪問できるので、訪れてみたらどうでしょうか？

● お勧めの城跡



石神井城・・・練馬区にある都立石神井公園。三宝時池の南側に土塁と堀跡が残り中世にタイプスリップしたような気分を味わえます。

世田谷城・・・閑静な住宅街に残る城跡です。現在は世田谷城址公園として整備され、住宅地の希少な緑のオアシスとなっていますが、一部ではありますが、土塁が残っています。ちなみに東京都無形民俗文化財に指定されている「世田谷のボロ市」は世田谷城の城下で開かれた楽市が発祥だそうです。



その他、港区白金台の国立科学博物館附属自然教育園は室町時代の豪族の城跡と言われており、「白金長者屋敷跡」と言われています。渋谷駅から徒歩約5分のところにある金王八幡宮は渋谷城址、ほかにも葛西城（葛飾区）、赤塚城、志村城（ともに板橋区）稲付城（北区）元としまえん（現在、ハリーポッタースタジオ）も練馬城の跡に建てられています。

ちなみに女子高生が都内の城を訪ねるコミックも登場しています。遺跡が残っていない城跡に関心を持つ人も増えてきています。



最後に地名の話題を一つ、杉並区に今川1丁～4丁目がありますが、この今川の由来は桶狭間の戦いで織田信長に敗れた今川義元の子供今川氏真（どうする家康でも登場）が徳川家康から与えられた領地からきているそうです。今川氏真以降の代々の当主のお墓も残っています。地名の由来を合わせて、調べながら、散策もどうでしょうか？

（技術・保安グループ 高平 進一）